

マイナ救急

令和7年10月1日から開始します！

山口市消防本部では、マイナ保険証を活用して過去の受診歴や薬剤情報などを把握し、皆様をより円滑に医療機関へ搬送するための取り組みを開始します。

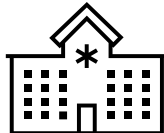
マイナ保険証を活用するメリット



あなたの
病歴



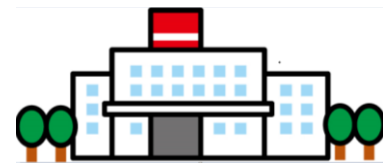
お薬の
処方歴



病院の
受診歴



- ・傷病者の負担軽減
- ・より適切な応急処置
- ・円滑な救急搬送
- ・病院での事前準備

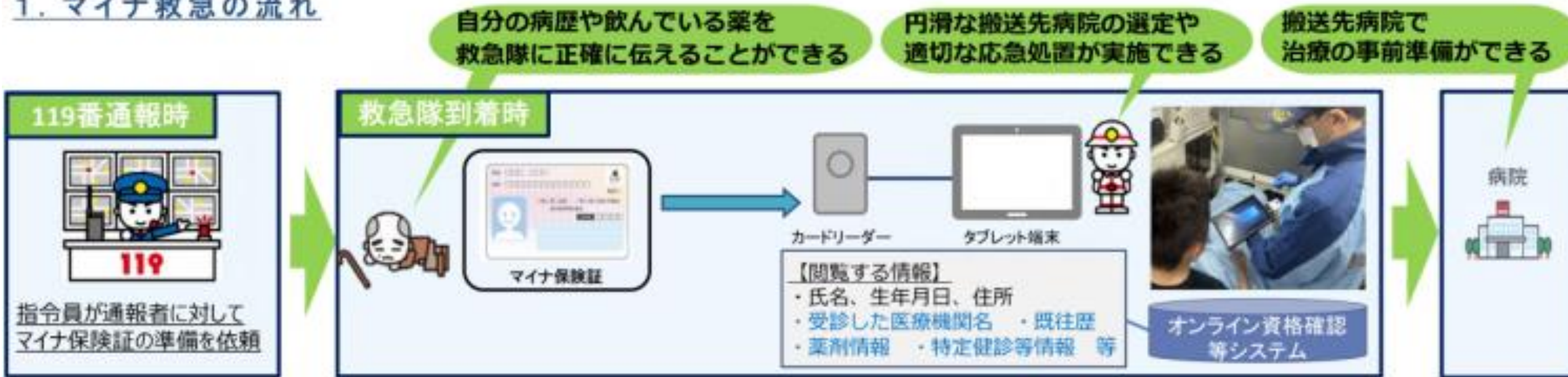


を救急隊へ正確に伝達可能

実証事業の概要

➤ マイナ救急とは、救急隊員が傷病者のマイナ保険証を活用し、病院選定等に資する情報を把握する取組

1. マイナ救急の流れ



マイナンバーカードの健康保険証
利用登録がお済みでない方はこちら



あなたの命を守る
マイナ救急



YouTube
(二次元コード)



マイナ救急 令和6年度実証事業

○救急現場にいた関係者が高齢の夫婦のみだった事例(円滑な病院選定に繋がったケース)

年齢・性別: 90歳代 男性

通報内容: 傷病者の妻から、自宅で夫がうつ伏せで動けない。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は、うつ伏せ状態のまま動けず、意思の疎通が困難な状態であり、また、通報した妻も、傷病者の病歴や飲んでいるお薬を把握していない状況。

救急隊の活動内容: 自宅にあった傷病者のマイナ保険証から、傷病者の通院履歴や薬剤情報を閲覧し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を選定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。



<マイナ救急の有用性>

高齢の夫婦のみで情報把握が困難な事案であったが、マイナ救急を実施することにより、救急隊が正確な情報を把握し、搬送先病院を円滑に選定することができた。

○実家に帰省中で、お薬手帳を所持していなかった事例(円滑な病院選定に繋がったケース)

年齢・性別: 50歳代 女性

通報内容: 帰省先の実家において、食事中に意識を失い、椅子から床に倒れこんでしまった。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は精神疾患で薬が処方されていたが、帰省中であったためお薬手帳を所持しておらず、飲んでいる薬が分からない状況。

救急隊の活動内容: 傷病者が所持していたマイナ保険証から薬剤情報を確認し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を選定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。

<マイナ救急の有用性>

お薬手帳を所持しておらず、薬剤情報不明のため、搬送先医療機関の調整が難航するおそれがあったが、マイナ救急を実施することにより、薬剤情報を確認することができたため、搬送先は初診の医療機関ではあったが、円滑に搬送先医療機関を選定することができた。





マイナ救急 令和6年度実証事業

○苦しさのため傷病者の説明が不明確だった事例(かかりつけ医療機関への搬送に繋がったケース)

年齢・性別: 60歳代 男性

通報内容: 身体全身のだるさがあり、息苦しさが治まらない。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者の話にまとまりがなく、詳しい症状を聞くことができなかった。かかりつけ医療機関の記憶もあいまいで、具体的な病歴も本人は覚えていなかった。

救急隊の活動内容: 本人からマイナ保険証の提示があり、マイナ救急により、かかりつけ病院と薬剤情報を閲覧。薬剤情報から慢性腎不全ということが判明し、かかりつけ病院に連絡し、搬送した。



＜マイナ救急の有用性＞

傷病者が苦しみにより救急隊に口頭で説明できない状況においても、マイナ救急を実施することにより、かかりつけ病院や薬剤情報を確認することができ、円滑にかかりつけの医療機関へ搬送することができた。

○外出先で意識障害を起こした事例(救急隊の適切な応急処置に繋がったケース)

年齢・性別: 60歳代 男性

通報内容: 外出先でふらつき、立ち上がることができない。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は意識がはっきりしておらず、会話ができない状態であった。

救急隊の活動内容: なぜ意識障害を起こしているか分からない状況であったが、傷病者本人が所持していたマイナ保険証から医療情報を確認したところ、既往歴として糖尿病であることが判明し、ブドウ糖を投与した。搬送中に意識レベルが回復し、病院到着時には会話可能な状態まで回復した。



＜マイナ救急の有用性＞

既往歴から適切な応急処置を実施することができ、搬送先の医療機関に到着したときまでに、会話が可能な状態まで回復した。



マイナ救急 令和6年度実証事業

○自転車で転倒し、外傷を負った事例(速やかな病院連絡に繋がったケース)

年齢・性別:50歳代 男性

通報内容:自転車を運転中に転倒した。

救急隊到着時の現場の状況:生命を脅かす外傷は確認できなかったが、持病など別の要因により転倒した可能性もあるため、既往歴等を確認する必要があった。

救急隊の活動内容:隊長が詳細な全身観察、受傷した部位の観察及び問診を行うのと並行して、別の隊員が持病が無いかどうかマイナ救急により既往歴等を確認。傷病者に直接質問することなく、マイナ救急で既往歴等がないことが確認できたため、速やかに医療機関に連絡した。



＜マイナ救急の有用性＞

傷病者の観察や問診と並行して、マイナ救急で既往歴等を確認できたため、不必要な質問をせずに、速やかな病院連絡に繋がった。

○意識がもうろうとし、意思疎通困難であった事例(医療機関の事前準備に繋がったケース)

年齢・性別:70歳代 男性

通報内容:足がふらつき、意識もうろうの状態

救急隊到着時の現場の状況:傷病者は意識もうろうの状態であり、意思疎通が困難な状況。

救急隊の活動内容:マイナ救急により確認できた薬剤情報から、消化管出血による貧血を疑い、緊急内視鏡及び緊急輸血可能な医療機関を選定し搬送した。

＜マイナ救急の有用性＞

マイナ救急を実施することにより、飲んでいる薬が分かり、その薬の効果や症状から病名を推測し、適切な医療機関を選定することができた。また、搬送先の医師からは、「服薬情報を事前に得られたため、緊急オペなどの事前準備ができた」と感嘆された。

